

# 号外特集！

## ゴールド・エコテック技術による 強力タッグが実現

2009 年度におおさかエコテックの技術評価を受け  
ゴールドエコテックの選定を受けた2技術が協力して研究開発！  
ポンプ性能をアップさせた溶解式紙処理機、改良型「Fine Paper Block」誕生！！

オフィス等から出た機密書類をその場で溶解しリサイクル  
容易な紙ブロックにする製品。機密性を保持するとともに  
資源の有効利用が期待できる。



MACHINE PLAZA  
(株)マック マシンツール  
MAC MACHINE TOOL Co.,LTD.

JAPON  
株式会社 ジャポン

### どういった経緯で共同開発を行うことに？

相談を持ちかけたのは(株)マックマシンツール(以下、マック)からだった。既存の溶解式紙処理機では、ポンプ能力が低い、紙繊維が詰まりやすいなどの課題があり、これを解決するため(株)ジャポン(以下、ジャポン)に相談したのが事の経緯。

### どういった方法で課題を解決したのか？

従来の処理機が抱えていた課題を2社が工夫を凝らして解決していった。しかし、新しいポンプを導入することで新たな課題も生まれ、様々な改良が必要だった。

課題1：ポンプの能力が低い ジャポン製のポンプを採用することで解決。しかし、能力が高い一方でポンプ内部の紙詰まりという新たな問題が生じた。

課題2：ポンプ内部の紙詰まり 回転羽を追加してポンプ内部の水流を改善することで解決。

課題3：揚水のパワーが大きいと、溶解液の飛散も起こる 本体の溶解槽にカバーを取付けて解決。また、もし紙の溶解液がポンプにかかっても、そこは高耐食を得意とするジャポンのポンプ、問題なしとのこと。

課題4：液中ポンプを液外で使用するため過熱の恐れがある 専用のファンを取付けて解決。さらに、全体の重量を減らすためにポンプ自体の軽量化も図り、元の仕様とは全く異なる仕様となった。ジャポン社長いわく、「初めてのケース。ポンプの常識からは離れた特別仕様」。マック社長も言った。「ジャポンさんがいろいろ無理な相談に乗ってくれたおかげです。」

### 相談から6か月で改良機が完成！

最初に相談があってから幾度にもわたり試作と改良を繰り返してきたが、なんと6か月後には改良機が完成した。マックのなんとか顧客サービスを向上させたいという気持ちと、ジャポンのスピーディーな対応が短期間での完成につながった。迅速な顧客対応と技術の融合によって生みだされた特別仕様の本製品。ゴールド・エコテック同士のハイレベルな共同開発による改良型溶解式紙処理機がみなさんのオフィスで活躍する日が近いかもしれない。



溶解式紙処理機の内部（左下がポンプ）

## < 会社概要 >



会社名：株式会社マックマシンツール

設立：1987年5月

代表者：代表取締役 岡田 年晴

住所：大阪府吹田市垂水町3丁目  
34番15号(伸栄第一ビル6F)

TEL：06-6339-3309

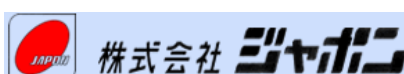
資本金：3000万円

業務内容：各種産業機器の製造・販売



2009年度「機密文書をブロック状に固める溶解式紙処理機」をゴールド・エコテックに選定。

<http://www.mac-machine.co.jp/index.htm>



会社名：株式会社ジャポン

設立：1978年

代表者：代表取締役 松阪 稔

住所：大阪府岸和田市八阪町  
3丁目19番16号

TEL：072-438-1213

資本金：500万円

業務内容：FRP製ケミカル液中ポンプの製造



2009年度「高耐食FRP製ケミカル液中ポンプ」をゴールド・エコテックに選定。

<http://chemical-japon.jp/>